



スマート保育園® 通信

10
月号

特集1 ついに満足度100%!! 今まで体験したことがない研修?
第4回モデル園集合研修(最終回)

特集2 ドキュメンテーションで園の方針を保護者に伝える?
認定こども園さくらインタビュー

お知らせ 11月は乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間

コラム 保育者からの贈り物 vol.2

特集1

ついに満足度100%
今までに体験したことがない研修?
第4回モデル園集合研修
(最終回)

モデル園の皆さまに参加いただいた、往還型ドキュメンテーション研修の全4回が修了しました。これまで3回の研修での学びを基に、保育現場での日常の1シーンを園内で共有したのち、1枚のドキュメンテーションにまとめ、ご発表いただきました。

【参加者コメント】

「どう撮影したら保護者に伝わるかを考えて撮ることが増えました」
「ただ写真を見せ合うだけではなく、保育者同士・保護者との会話の時間が増え、深く掘り下げた話もできるようになりました」
「子ども一人一人の興味や、その一瞬を逃さないようにという思いが、更に強まりました」

【アンケート結果】

研修満足度：100%、研修前と比較して職員間の共有が増えた：約90%、保育者間の共有が増えた：約90%、新たな保育の楽しさを実感した：100%というアンケート結果を頂きました。また、ドキュメンテーション活用方法を学ぶには今回のような研修が必要と考える参加者は100%でした。

監修いただいた、無藤先生、大豆生田先生からも非常に素晴らしい研修だったとお言葉を頂きました。

モデル園の皆様、保育への想い、熱意を持って全4回の集合研修ご参加、ご発表本当にありがとうございました。

ルクミーでは、この研修以降、スマート保育園@モデル園同士のつながりおよび学びを大切にしていく機会を準備しており、定期的なオンライン交流で保育の質を高めていく各モデル園のシナジー（相乗効果）の場を創出していきます。

※ 本研修の内容は、本通信をお送りしたメールでご案内しております、「往還型ドキュメンテーション研修」と同様になっております。そちらをご覧ください。



～参加者の、実際に使用した写真と、ドキュメンテーション事例の一部をご紹介します～

チャレンジテーマ「子どもの育ちを見守る－できるかな？やってみよう－」（うきは幸輪保育園 園長 橋本様）



- 事例：「お外に行くよ」の声掛けに急いで自分の靴を持って来て、履こうとしている。
- お子さま視点（子どもの経験や学びについて読み取ったこと）：A君が自分で靴を履こうとしている。いつも元気いっぱいでも手先があまり器用ではないA君だが、何とか自分の足を靴に入れる事に夢中になり、わき目も降らずに頑張っている。
- 保育者視点（保育者として感じ、考え、したいと思ったこと）：早く外で遊びたい気持ちをくみ取り、手伝ってあげたい所だが、本児が納得できる所までは見守るようにした。完全にはできなくても、集中して取り組めるようになったA君の成長を認めてあげたい。
- 「チャレンジ」からの学びと今後の目標：未満児は身の回りの事も少しずつできるようになる大切な時期なので、自分でしようとする気持ちを大事にし、援助のしかたや声掛けに工夫が必要だと感じた。こんな場面を見逃さないような丁寧な保育を心がけたい。

特集2

認定こども園さくら
・さくら第2保育園
園長 堀 昌浩様
インタビュー



▲認定こども園
さくらWebサイト

▼さくらcafe(園併設)
夕暮れマルシェ会場
にも

▼玄関を入ると左右に沢山のドキュメンテーション(週2,3更新)



認定こども園さくらには、施設内に多数のドキュメンテーションが掲示されています。ルクミースタッフが掲示物について、保育者に質問すると、おさまと同じキラキラした目で、写真の背景を説明してください。「芝生は歩くときふわふわなのに、寝ると堅いのなんで?」といわれまして・・・私(保育者)は・・・。」と、おさまの主体性だけでなく、保育者の主体性も大切にされる園の方針の基、在籍・所属する一人ひとりが園生活を楽しまれているように感じました。堀園長「こうなるまで、時間がかかったんですよ。当園ベテラン保育者はみな知っている。あれは、まさに改革でした。」(少しだけ恐いお顔の)堀先生の眼に涙があふれていることに気づいてしまったルクミーでした。

廊下の写真活用掲示物 「てづくりしゃぼんだま」

最初は失敗かと思ったけれど、3日間寝かした所、しゃぼん玉が大きく膨らんで大喜び。材料は、オクラ、生クリーム、納豆!?

お知らせ 11月はSIDS 対策強化月間

▶厚生労働省乳
幼児突然死症候
群(SIDS)
について



あつてはならない事態。ただし、いまだ原因は解明されていない乳幼児突然死症候群。ルクミーは実際に園に訪問して、保育者がいかに午睡中の乳幼児に注視されているかを学ばせて頂きました。ルクミーはテクノロジーを通して保育者の安心をサポートできれば、と考えています。

乳幼児突然死症候群(SIDS)は12月以降の冬期に発症しやすい傾向があることから、厚生労働省は、毎年11月を乳幼児突然死症候群(SIDS)の対策強化月間と定めています。SIDSに対する社会的関心を喚起するため、発症率を低くするポイントなどの重点的な普及啓発活動を実施しています。



保育者からの贈り物 Vol.2

2歳5か月になる双子の「ことほ」と「みずは」は2019年4月から保育園に通い、2年目になりました。



2人は仲良しなのですが、1歳半頃からだんだん自我が強まり、些細な事で衝突することが増えてきました。「こっこが!」VS「みーみが!」で両者号泣という揉め事は日常茶飯事。そんな毎日でも親も娘たちもへとへとでした。そんなある時、お迎えの時に先生が揉める子たちに「10数えたら交換しようね」と子どもの目線でお話している姿を見かけました。軽い気持ちで「うちもよく揉めて大変なんです」と話をすると、「園ではやりたい人がいたら10で交換しようというルール」「伝えるときはその子の目を見て伝えることを大切にしている」と教えてくれました。思い返せば、家では家事に追われてちらっと見て声をかけるだけだったな...とちょっと反省。今では、自分から「10でこうかんね?」と上手に交換ができるようになり、さらに「ちょっとまってね」と相手に伝えられた時には感動しました。先生たちのおかげで娘たちがこんなにも成長できていることが本当に嬉しいです。それだけでなく、親も成長させてもらっています。いつもありがとうございます。





全国の数百園のご応募の中から、スマート保育園®のモデル園11園が選出されました。

当園は、スマート保育園®のモデル園です。

1.

複雑な保育の現場業務を、見える化し、その中にひそむ課題を洗い出します。

2.

ルクミーの全5サービス*を全て導入して、園業務を効率化し、保育者がお子さまに向き合う時間を増やします。



3.

保育者へのオンライン研修や保育者ケアなど、保育の質向上への支援を受けます。



スマート保育園になると、子どもにとってはどう良くなるの？

紹介動画をご覧ください



※お使いのカメラアプリで、QRコードが読み取れます。

スマート保育園®って？

テクノロジーの支援で保育者の「心」と「時間」にゆとりが生まれ、子どもと向き合うことに集中できる保育園です。

お子さまと「もっと向き合いたい」という、保育者の想いを支えます。



全国のモデル園

ニ ルクミーから保護者の皆様へ

去る6~9月の4か月間にわたり、保育の質向上のための、スマート保育園®モデル園集合研修を実施しました。全国のモデル園の保育者の皆さまにオンラインでお集まりいただき、豪華講師陣の指導のもと、講義の受講や、他園の保育者の方々と入り交じってのグループワークを行いました。

——主な内容をご紹介します。

1. 「保育の質の高い園に見られる共通点は？」講義を受講。
2. 保育の質向上に向けて、一人ひとりでチャレンジテーマを設定しました。
3. 4か月の間、テーマに基づき保育を実践しながら、研修のグループワークで振り返り、保育者同士で討議し、保育への視点を広げ、高める流れを実践していただきました。
4. 成果を発表し、講師よりフィードバックを受けました。

講師ご紹介

白梅学園大学名誉教授 無藤 隆 先生
 玉川大学教授 大豆生田 啓友 先生
 (NHK Eテレ「すくすく子育て」にも出演されている先生です！)
 保育のデザイン研究所 川辺 尚子先生



※修了証デザインは変更になります。

Creating new infrastructure for society that brings happiness to families around the world

家族の幸せを生み出す
あたらしい社会インフラを
世界中で創り出す

